

㊦ 1年生 | 「大きな数」

数を数える必然性のある場面を設定する

生活の中には大きな数はたくさん出てきます。しかし、意識して数える場面を作っていないと、子どもたちは数えようとしません。授業の中に、数を数える必然性のある場面を多く設定していきましょう。

1. 具体物を10ずつまとめて数える活動

授業の導入ではぜひ、具体物を数え、10ずつまとめていく活動を取り入れましょう。

「牛乳キャップつかみ競争」をして誰が一番多くとれたか、どの班が一番多くとれたかを競います。ブロック、数え棒などでも同様にできます。



教科書では、大きな数の導入では絵や写真などを数える活動から入っています。これは、ひとつずつ数え上げたり10ずつまとめたりする方法を体験した後にはさせると、混乱なくできるようになります。

2. 数表を見ながら100までの数を唱える活動

模造紙に100までの数表を書きます。数字が規則的に並んでいることに子どもたちは気付きます。数字の並びの美しさを感じさせながら、きまりをみつけていく学習はぜひ時間をかけて行いたいものです。

その後、数表で数を唱える練習も取り入れていきます。子どもたちと一斉に、太鼓や手拍子などで拍子をとってリズムカルに数えると楽しくなります。

右の写真は100までのカードを作り、黒板に掲示したものです。この後、数字カードを1枚ずつとっていきながら数を唱えました。模造紙

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
60	61	62	63	64	65	66	67	68	69
70	71	72	73	74	75	76	77	78	79
80	81	82	83	84	85	86	87	88	89
90	91	92	93	94	95	96	97	98	99

に書いた数表なら、マグネットなどで隠して唱えさせると子どもたちは喜びます。隠した数字は声に出さず心の中で唱えるようにしたり、その逆に隠した数字だけを唱えたりするのも変化があり、あきずに繰り返し練習できます。

3. 冬の遊びで数える活動を入れる

冬休みがあげると、生活科でお正月遊びなどに取り組む学校も多いと思います。冬の遊びに、数を数える活動を意識して取り入れていきましょう。

竹馬で歩いた数、はねつきが続いた数、お手玉が続いた数、友だちと一緒に数えていきます。

コマが回っていた時間を数えることから秒を教えるのもいいでしょう。時間という見えないものも数字で表すことができる体験を1年生の時からしておくことは重さなどの学習にもつながっていきます。

4. 数直線を子どもと一緒に作る

大きな数を学習すると5とびや10とびで数字の書かれた数直線が出てきます。これは1年生にとっては抽象的な思考になります。子どもと一緒に数直線を作っていくと、数直線の理解が深まります。



「線は何本あるのかなあ」と問います。「数えればいいよ」「数字を書いていこう」「全部数字を書くのは大変だから10ずつ書こう」「5ずつ書いておくと数えやすいよ」「線も目立つように少し伸ばそう」「10の線は5の線より長いほうがいいよ」など、子どもと対話しながら数直線を作っていきます。

